Q 越後湯沢駅東口広場の現状認識と今後の対応について

富沢雅文（とみざわ まさふみ）（文責）

& A 現状、冬季間の混雑が利用者に影響を与えていると認識。次のシーズンに向けて運用面での対策を実施する

質問 越後湯沢駅東口駅前広場運用検討会議による検討状況は。

答弁 10月に1回開催し、現状を委共有し、今冬における最善の運用方法を検討。苗場線のバス待ちの列の並び方を変えたり、五番線にバスを並列に乗り入れ乗車させたりするなどの当座の対策を実施。

質問 当座の運用改善と中長期的な抜本的な再開発とを分けて考える必要がある。運用改善においては、大型バスの旋回軌道等を考慮するなど専門的知識が必要となる。地域活性化企業人等の専門性を活かすべき。

答弁 駅前広場の面積制約と予算上の制約から、大規模改修は困難と考えており、現時点では運用面の対応が中心となっている。地域活性化企業人の専門性を活かしながら、来シーズンに間に合うように運用の見直しを行いたい。

質問 東口エリアは駅通りの活性化と併せて面的に考える必要があり、すでに町の「立地適正化計画*」にビジョンが示されているが、この計画の理解が進んでいない。駐車場不足についても、特定の店舗のためでなく駅周辺の回遊性を高めるという視点からは、それぞれの事業者に任せておくだけでは解決が難しい。

答弁 「立地適正化計画」の周知をすすめ、計画をしっかりと進めていきたい。顧客用駐車場は事業者が整備するのが原則で、駅周辺エリアの回遊促進のためには、既存ストックの有効活用を最優先していきたい。（滝沢駐車場の周知・誘導強化）

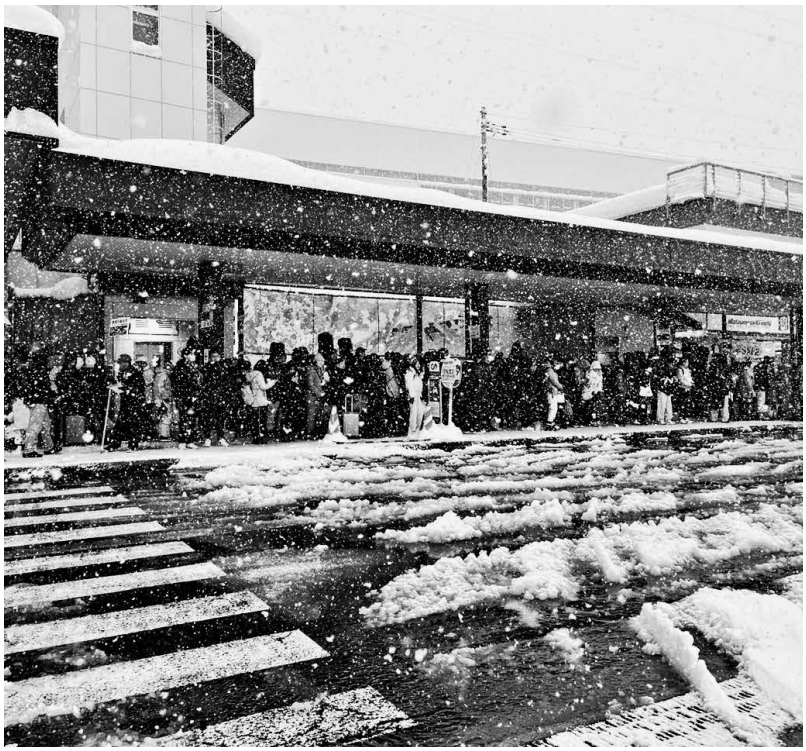
質問 避難場所となっているが、旧湯沢小学校グラウンドを今のままにしておくというのはもったいない。民間投資を含め検討してみては。

答弁 町にとって、地域にとって、町民にとってプラスであるかないかというところをしっかりと判断しながら、民間投資を含めて検討していく。

＊立地適正化計画

人口減少・超高齢化社会に対応し、居住や医療・商業などの生活機能を特定の区域へ集約（コンパクトシティ）し、持続可能な都市経営を目指す「都市再生特別措置法」に基づく市町村の将来設計です。

湯沢町の計画では、都市機能誘導区域として、越後湯沢駅東側を誰もが車に頼らずに移動できる範囲（高齢者の一般的な徒歩圏：半径500m）として、行政・医療・福祉・金融等の主要な生活サービス機能が集約される区域に設定しています。



今冬の駅東口広場のバス待ち